

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾通信

T：峠を over：越えて

T：たがいに over：越える

T：ともに over：越える

Talk over：じっくり話し合う

私たちのコンセプト、「みんなで語り合う人権学習」



「私の両親は離婚してて、今は父さんの方に住んでるんだけど、弟2人は母さんの方に住んでて…。

5年生ぐらいの時からそんな話が出てて、6年生ぐらいの時に学校に行きたくなくなって、…それずっと保健室でいた時があって、…ミニバスにもほとんど行けなくなって、キャプテンなのに申し訳なかったなって…。

月1回ぐらい母さんとも会ってるんだけど、最初の方はムカついてて、会ってあまり目合わさなかっただし、メールが来ても返さなかっただし、電話も出ないときもあって、母さんにはすごくつらい思いさせたなって、今になって思う。

母さんに、「母さんところにおいで」と何度も言われて。でも私はここでいるって決めたし、そう言われるのがすごくつらくて…。

今まで友達にも話さなかっただし、親にも自分の気持ちなんて言わなかっただ。何にも口に出さなくて…ただいつも泣くばかりで。でもこうやってみんなが聞いてくれるから、それはとってもうれしくて…ありがとう。」



決して人に言うことはないと思ってた。  
そんな自分が、好きになる。人を好きになる。  
そして、伝えること、つながることの意味を知る。

30年あまりの歳月を超えて寄せられた教え子からのメッセージ。

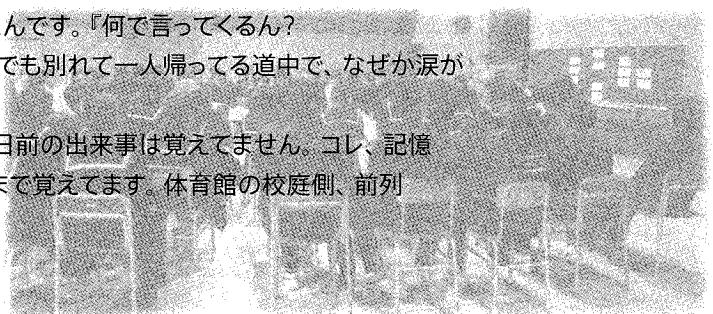
「おはようございます。僕の率直な意見を送ります。当時僕は、県外から引っ越してきました。部落問題なんてまったく知らなかったんです。まわりの皆さんは知ってました。小学校から取り組まれてたんでしょうね。

僕ね、知らなかつた方が良かったって、当時思ってました。わざわざ知らせることないんじゃないかな。  
知ったが故に違和感持つたり…知らなかつたら今まで通り普通に過ごせるのに…って。

部活の帰りOちゃんと歩いてたら、アイツ、カミングアウトしてきたんです。『何で言ってくるん?  
わざわざ…別に差別なんかしないし…それ言って俺に何を?』って。でも別れて一人帰ってる道中で、なぜか涙がこぼれました。

懐かしい歌聞けば当時が走馬灯のように思い出されます。でも3日前の出来事は覚えてません。コレ、記憶  
じゃなくて『感動』で心に響いてるからなんです。僕、全体学習の席まで覚えてます。体育館の校庭側、前列  
3番目でした。向かいの窓から職員室越しに青天で…。

感じたことは温度差・個人差あるでしょうが、僕は残ってます。」



面倒な年ごろと言われる中学生。

多感な年ごろと言われる中学生。

知っていますか?

その年ごろに同世代から聞かれた心の声には、強く心揺さぶられるということを。  
知っていますか?

それは忘れられない強烈な記憶として宿り続け、後の人生に大きな影響を与えるということを。

いつまでも、みんなの心に残り続ける人権学習を、すべての子どもたちに。

みんなで語り合う、本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおブランチ代表